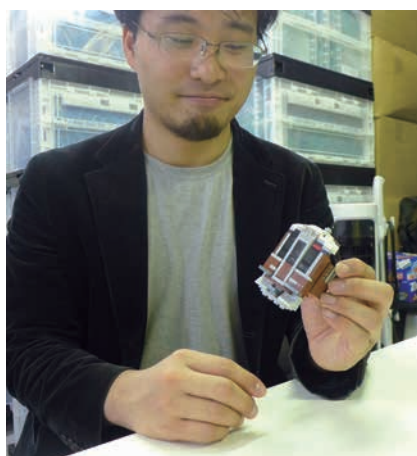


ホームの喧噪まで聞こえそうな「阪急梅田駅」(三井淳平さん提供)



【レゴ®ブロックで生み出すリアルな世界】 日本人初の 「認定プロビルダー」は 明石出身

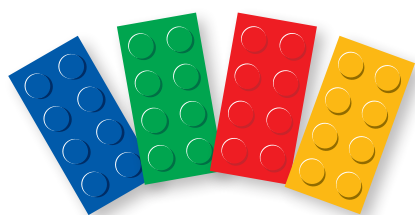
子どものころ、赤、青、黄、白などのカラフルなブロックを組み合わせ、電車やロボットを作って遊んだ思い出は、世代を超えてあるのでは。

その「遊び」を「仕事」にしてしまった人がある。日本人唯一の「レゴ認定プロビルダー」として活躍する三井淳平さん(30)は、兵庫県明石市出身。東京大学在学中に「東大レゴ部」を創設し、大手企業に就職したものの、作品づくりに専念するため2年前に独立した。

4月には、甲子園球場や神戸・ポートタワーなど関西ゆかりの名所を再現した作品群が大阪・梅田の繁華街、阪急三番街にお目見えした。一つ一つは無機質なプラスチックの小さなパーツだが、三井さんの手にかかれば、人々の息づかいまで伝わってきそうな街の風景や、今にも動き出しそうな生き物たちに生まれ変わる。

大人も魅了する作品を次々に生み出す三井さんの仕事場を訪ねた。

(神戸新聞東京支社編集部長 勝沼直子)



ここが見どころ!

※①～⑤は
三井さん提供



①巨大ジオラマの一部。神戸・ポートタワーは実際の構造に忠実に組み立てた



阪急三番街北館1階にオープンした「阪急ブリックミュージアム」。通路沿いに関西にちなんだ三井さんの5作品が並び、行き交う人を楽しませている＝大阪・梅田（撮影・勝沼直子）



②ツタが絡まる「阪神甲子園球場」



③「南蛮胴具足」の後ろの金屏風もすべてレゴ



④珊瑚の質感までリアルな「アクリウム」



⑤券売機の色分けなど小わざが効いている「阪急梅田駅」

関西ゆかりの風景を再現

大阪・梅田の繁華街阪急三番街に新名所が誕生した。
人気玩具「レゴブロック」による五つの大型作品を展示する「阪急ブリックミュージアム」。子どもたちはもちろん、急ぎ足のサラリーマンや買い物客も思わず立ち止まってのぞき込んでいる。

最大の作品は、神戸・大阪・京都のランドマークを集めた全長7mの巨大ジオラマ「阪急・阪神沿線の街並み」。神戸・ポートタワーは「実物の構造を参考にした」という。

海原に波立つ航跡を白と透明のブロックで表現するなど全部で25万ピースのブロックを使い、きめ細かい工夫が施されている。

「アクリウム」は、以前この場所にあったミニ水族館にちなんだオリジナル作品。色とりどりの水中生物がにぎやかで楽しい。「明石出身なので、タコを真ん中に置いてみました」と三井さん。

「阪神甲子園球場」は、内野席を覆う銀傘裏の鉄骨や、外壁に絡まるツタとレンガ模様、レトロなアーチ型のゲートまで再現され、ファンにはたまらない仕上がりがりだ。

「阪急梅田駅」からは、乗降客のざわめきが伝わってきそう。黒光りするホーム床のツヤ感、券売機、自動改札など細部まで丁寧に再現している。ホームを行き交うミニフィギュアたちの動きも楽しい。

大阪夏の陣の活躍で知られる武将、真田幸村

の赤備えをイメージした「南蛮胴具足」は、赤いブロックをさまざまな角度で組み合わせてなめらかな曲面を出した。実は背面の金屏風も金色のブロック約1万枚でできている。

阪急電鉄の依頼を受けて製作したのは、東京都世田谷区在住の三井淳平さん。世界中にいるレゴファンの中でも、トップレベルの技術と創作意欲を持ち、レゴを使ったビジネスをレゴ社（デンマーク）が公認した「レゴ認定プロビルダー」だ。世界でもたった14人、日本には1人しかいない。

手作業が生むぬくもり

三井さんの作品は、精密さだけでなく、なんともいえないユーモアと温かみがある。それを生み出すのは、三井さんが貫いている独自のスタイルだ。

大型作品の場合、コンピューターグラフィック（CG）で設計し、パソコン画面を見ながら組み立てる手法が主流という。これに対し、三井さんは手作業に徹する。最初に大まかなデザインをスケッチすることはあるが、どんなに巨大な作品でも設計図は書かない。微妙な角度を指先の感覚で探りながら一つ一つパーツをつなぎ、CGには出せない複雑な組み方でリアルな質感や表情を表現していく。

使うのは特別なパーツでなく、誰でも手に入ることができる市販の基本パーツだけ。単純な四角いブロックの組み合わせで、いかに本物らしく見せるかが腕の見せどころだ。



神戸・大阪・京都の名所が一望できる全長7mの巨大ジオラマ（三井さん提供）

例えばライオンの鼻の下の筋、系統ごとに特徴がある電車の「顔」など、大胆に単純化されているのに「それらしく」見えるから不思議だ。子どもが夢中になって描いた絵が、素朴でありながら驚くほどモノの本質をとらえているのに似ている、などといったら失礼だろうか。

デザインから組み立てまで一人で作品を仕上げるのも三井さんの流儀だ。頭の中のイメージを100パーセント形にするには、分業でなく一人の作業が向いているのだという。「制約の中で自分にしかできない組み方やデフォルメの仕方を考える。そこにオリジナリティーがあると思うんです。自分らしく、見る人の心を動かす作品を作りたい」と熱く語る。

明石海峡大橋を見上げて

明石の大蔵海岸沿いにある実家で幼少期を過ごし、巨大な明石海峡大橋の建設過程を間近に見て育った。「大きな構造物が出来上がっていくのを見るのが好きでしたね。今の作品づくりにつながるような気がします」

進学した灘中・高校（神戸市）では、個性を尊重する校風が背中を押した。「何かに没頭し、人と違うことをやっても変人扱いしないムードがあった」と三井さん。高さ2mの「サターンV型ロケット」、等身大（？）の「ドラえもん」（約1.3m）などの大型作品に次々にチャレンジし、インターネットで公開した。

いくらおらかな校風とはいえ有数の進学校だ。勉強との両立は大変だったのでは？「レゴ



創設当時の東大レゴ部の作品。実物そのままの精密さに現役東大生も興味津々＝東京大本郷キャンパス、中央食堂

は気分転換になるし、集中力が高まる。勉強の妨げとは考えませんでした」と軽やかな答えが返ってきた。言葉通り、東大理科1類に現役で合格した。

東大では、ネットで知り合った同好の先輩らに呼び掛けて「レゴ部」を創設。当時のメンバーとともに完成させた「安田講堂」の模型は、今も東大本郷キャンパスの中央食堂に展示されている。

「認定プロ」に選ばれたのは大学院に在学中のことだ。ただ、このころからレゴを仕事にと考えていたわけではないという。

大学では工学部で金属材料を研究し、エンジニア志望だった。希望通り、鉄鋼大手の新日本製鐵（現・新日鉄住金）に就職し、「会社の仕事は楽しかったです」と振り返る。

名実ともに「プロ」に

就職後も会社の許可を得て作品づくりは続いていた。認定プロとして知名度が高まったこと



レゴで作った2メートル大のショベルカー。3月にラスベガスで開かれた建設機械の国際見本市で展示され、注目を集めた（三井さん提供）



東大安田講堂＝東京都文京区本郷7



もあり、大きな作品の依頼が増えてきた。休日
を製作に当てたが、時間の余裕がなく、依頼を
断ることもあった。

悩んだ末に「せっかく求められているのに、
やりたいことができないのはもったいない」と
独立を決意。3年間勤めた会社を退職し、名実
ともにプロとして作品づくりに専念できる環境
に飛び込んだ。

2015年に「三井ブリックスタジオ」を設
立。企業や自治体の依頼を受けてオブジェを
作ったり、子ども向けのワークショップを企画
したり、レゴを楽し
しむためのスマー
トホンアプリを開
発したり、レゴブ
ロックの魅力の発
信に努めている。



東京近郊で三井さんの作品が見られるのは川崎市麻生区の特別養護老人
ホーム・ラスール麻生に併設された「三井淳平アートミュージアム」。
玄関ロビーの壁一面を彩るのは伊藤若冲の大作「鳥獣花木図屏風」をブ
ロックで模写した作品=右上=。ピカソ、モネなど誰もが知る名画
も見事に再現されている。「未来の名古屋駅」をイメージした立体作品
=左上=も。開館時間9-17時、入場無料。川崎市麻生区白山1の1
の3。問い合わせはメールで。m.j-art.m@hakusan-fukushikai.com



「日本的なもの」に挑む

「好き」だけでは仕事にならない、というのが
世の常だとすれば、三井さんは好きなことが仕
事として成り立っている幸せなケースといえる。
もともと、実在するものを再現して人が喜ん
だり、驚いたりするのを見るのが好きだった。
「依頼を受けて作る作品と、自分が作りたいも
のは重なっている」と話す。

熊本地震後の復興イベントで市民とともに
作った「熊本城」、JRR名古屋のリニューアル
に合わせて頼まれた「未来の名古屋駅」なども
そう。自分の作品を喜んでくれる人がいると思
えば、どんな仕事も楽しく やりがいがあるに
違いない。

これから取り組みたいテーマは、意外にも
「日本的なもの」だという。「寺院や城などの伝統
的な建物を、日本人だから分かる繊細な感覚で
再現してみたい」。日本唯一のプロビルダー
が、小さなブロックから、どんな日本の姿を生
み出すのか。いまから楽しみだ。



アトリエ兼事務所はブロックを詰め込んだコンテ
ナが山積み。200万パーツはあるという=東京都
世田谷区、三井ブリックスタジオ

【三井 淳平 (みつい・じゅんぺい)】

1987年生まれ。灘高校3年の2005年、
テレビ番組の「レゴブロック王選手権」
で準優勝。進学した東京大ではレゴ部を
創設。大学院在学中の2011年、レゴ社
の認定プロビルダーに日本人で初めて選
ばれた。15年、株式会社三井ブリッ
クスタジオを設立。兵庫県明石市出身。東
京都世田谷区在住。



子ども向けに企画したかわいいキットの数々



復興への願いを込めた「熊本城」(三井さん提供)